



ルイジ・ギッリ《レッジョ・エミリア、1985》〈イタリアの風景－エミリア通りの散策〉より 1985年

TOP 30th Anniversary Luigi Ghirri Infinite Landscapes

2F 2025.7.3(木) → 9.28(日)



ルイジ・ギッリ《ザルツブルク、1977》〈F11、1/125、自然光〉より 1977年

ルイジ・ギッリの妻であり、アデーレさんにとっては母でもあるパオラ・ボルゴンゾーニさんは、ルイジとどのようにに協働されたのでしょうか。

母は、父がまだ若い写真家で、写真というメディアを試し始めたばかりの頃に出会い、キャリアの初期からその仕事をサポートしていました。少し強い言い方をすると、母がいなかったら父ルイジの名声は今のようなものではなかったでしょう。

母は父の写真集の編集を手伝ったり、表紙をデザインしたりしていました。写真集づくりは父にとってとても重要な仕事でした。1970年代に二人は仲間とともに「Punto e Virgola(プント・エ・ヴィルゴラ)」という出版社を設立しています。1970年代のイタリアには、写真文化の普及を目的とする専門出版社はほとんどありませんでした。それで二人は自分たちで出版社を立ち上げたのです。Punto e Virgolaから出版された写真集は、今日ではたいへん貴重なものになっています。母は父の仕事を手伝うだけでなく、彫刻作品などを作り、絵を描いていました。彼女自身が芸術的な魂をもっていたのです。今回の展覧会で父の作品だけでなく、母の作品が展示されることを本当に嬉しく思っています。

アデーレさんから見て、ルイジ・ギッリの作品の魅力はどのようなものですか。

私がもっとも興味を惹かれるのは、父の作品が、なぜこんなにも国も文化も違う人々の内面に働きかけることができるのかということです。展覧会場でよく聞かれる言葉にこんなものがあります。「不思議だ。あの写真に写っているのは子供の頃の私かもしれない。そんなはずはないのに」。彼が写真で表現したイメージを、まるで自分の記憶や思い出のように感じる方がたくさんいるのです。写真は記憶と結びつき、見た人の記憶を呼び起こします。父の作品にはとりわけそうした写真の特性を感じます。もしかすると父の写真は記憶装置のようなものなのかもしれません。つまり、彼の作品は、個人的で親密な記憶と、集団が共有している

社会的な記憶との間に存在しているのだと思います。自分の内部と、外部との間にあると言い換えてもいいでしょう。

父は人々を結びつけるものが何かを理解し、それを写真という言葉を通して視覚的な世界観を表現することに成功しました。だからこそ、彼の写真がこれほど多くの人々の心を捉えて離さないのでしょう。彼は常に写真を言語のように使ってきました。イメージは言葉のように組み合わせることで、さまざまな意味を生み出すことができるのです。

最後に日本の鑑賞者にメッセージをお願いします。

父はもういないのにこんなことを言うのは少し傲慢なことなのかもしれませんが、きっと日本を愛していたと思います。美しい風景や文物だけではなく、好奇心をそそるものや、皮肉的な要素のあるものがたくさんあるからです。ロラン・バルトはそんな日本を「表徴の帝国」と呼びましたが、父がこの地を探検し、写真におさめることができたらきっと楽しんだに違いないと思います。

今回の展覧会はルイジ・ギッリの人と作品を知っていただく良いきっかけになることでしょう。初めて父の作品に接する方たちにも、彼の作品の中に自分自身の何かを見出してほしいと思います。さらには、この展覧会を通して、彼の作品の多様性と広大さを感じていただければ幸いです。

(構成 タカザワケンジ)

PROFILE

ルイジ・ギッリ〈1943-1992〉

イタリアのレッジョ・エミリア県スカンディアノー生まれ。1970年代より本格的に写真制作に取り組む。色彩、空間、光に対する類まれな美的感覚と、ありふれたものをユーモラスに視覚化する才能によって、主にカラー写真による実験的な写真表現を探索してきた。また制作活動のみならず、写真専門の出版社「Punto e Virgola(プント・エ・ヴィルゴラ)」を仲間たちと立ち上げ、さらにプロジェクト大学で写真理論に関する講義を行うなど、多岐にわたる活動を展開した。

1970年代から90年代にかけて活躍したイタリアを代表する写真家であり、21世紀に入ってからますますアーティストとしての評価が高まっているルイジ・ギッリ。画家のジョルジョ・モランディのアトリエの撮影や建築家のアルド・ロッシとのコラボレーションを行う一方で、芸術としての写真を探求した彼はどのような人物だったのか。その作品の魅力とは。ルイジ・ギッリのご息女で、ルイジ・ギッリ財団代表でもあるアデーレ・ギッリさんにお話をうかがいました。

アデーレさんのお仕事について教えてください。

私の父、ルイジ・ギッリの名を冠した財団で働いています。財団の目的は、父の作品を保存・公開することです。アーカイブは保存の場であるだけでなく、交流の場として広く扉を開くことで、異なる分野や背景をもった人々に父の作品と資料に関わってもらうことでもあると考えています。ルイジ・ギッリは20世紀に活躍し、30年以上も前にこの世を去ったアーティストです。作品について説明しただけでは、その価値を十分にわかってもらうことは難しいと思いますが、父の作品には今日でも十分に通じる要素やテーマがたくさんあります。私たち遺族や相続人は、彼が遺した偉大な遺産を保存し、未来に伝え続ける責任があります。

ルイジ・ギッリはどのような方でしたか？

父は49歳の若さで亡くなりました。私はまだ幼かったので、父に関する直接的な記憶はほとんどありません。私が父について知った

のは、周囲の人々の話や父の写真を通してでした。私がもっとも興味をもったのは父の旺盛な好奇心です。蔵書やレコード盤を見れば、彼がとてもオープンで好奇心旺盛な人物であったとわかります。とくに蔵書からは、哲学や文学にも造詣が深かったことがうかがえます。アーティストだからというだけでなく、文化的にとっても豊かな人でした。私が父の作品から感じるのは、彼が自分自身の内側に閉じこもる芸術家ではなかったということです。父の周囲にいた人たちは、彼が特定のものにだけ関心をもったのではなく、ありとあらゆるものを撮影していたと証言しています。

それは作品からもうかがえます。イタリアの美しい自然風景を撮るだけでなく、郊外の家並みや道路沿いの破れたポスター、足元の水たまりも写真におさめており、父はとても自由なまなざしをもっていました。好奇心の強い人ならではのまなざしです。また、彼の作品からは、皮肉や遊び心、落ち着いた穏やかな視線が読み取れます。それは世界に対する心優しい見方であり、自分の外側にあるものの、被写体に対する深い敬意を意味していると思います。



ルイジ・ギッリ《モデナ、1978》〈静物〉より 1978年



ルイジ・ギッリ《モデナ、1978》〈静物〉より 1978年



ルイジ・ギッリ《グリッツァーナ・モランディ、1989-90》〈ジョルジョ・モランディのアトリエ〉より 1989-90年 東京都写真美術館蔵

このページの図版は全て©Heirs of Luigi Ghirri

総合開館30周年記念 ルイジ・ギッリ 終わらない風景

TOP 30th Anniversary Luigi Ghirri Infinite Landscapes

2F 2025.7.3(木) → 9.28(日)

イタリアを代表する写真家ルイジ・ギッリ、アジア初の美術館個展

ルイジ・ギッリ(1943-1992)は測量技師としてのキャリアを積んだのち、コンセプチュアル・アーティストたちとの出会いをきっかけに、1970年代から本格的に写真家として活動を始めました。本展では、1970年代から晩年にかけてギッリが撮影したイタリアや旅先の風景、アーティストのスタジオ、自宅の室内、美術品、看板やポスター、窓や鏡に映る風景など、多様な視覚的断片によって構成された風景表現を紹介します。あわせて、ギッリの活動を語るうえで欠かせない存在であり、自身もグラフィック・デザイナーとして活動した妻パオラ・ボルゴンゾーニ(1954-2011)の作品や資料も展示し、約20年にわたるギッリの写真に対する多角的な思索をたどります。ギッリが探求し続けた、終わりのない風景に対する解釈と世界観に触れる機会となれば幸いです。

| 観覧料 | 一般800円ほか 各種割引あり
| 主催 | 東京都写真美術館 | 後援 | 在日イタリア大使館
| 助成 | 公益財団法人ポーラ美術振興財団 | 協賛 | 東京都写真美術館支援会員

関連イベントは当館
ウェブサイトをご覧ください

EXHIBITION

3F

2025
7/3
(木)

2025
9/21
(日)

総合開館30周年記念
TOPコレクション トランスフィジカル

TOP 30th Anniversary TOP Collection: transphysical

総合開館30周年を記念したTOPコレクション展二期は、4名の学芸員が共同で企画するオムニバス形式の展覧会です。写真と絵画の関係性を探る「第1室 撮ること、描くこと」、踊りという身体表現による衝動と社会性に迫る「第2室 dance」、色で視覚表現を受けた写真と実験的なビデオアートを取り上げる「第4室 虚構と現実」、デジタル時代において写真の物質性とオリジナルプリントの価値を問い直す「第5室 ヴィンテージと出会うとき」と多彩な5つのテーマで構成。モノとして存在する写真の「物質性」や、被写体や作家自身の「身体的表現」に着目します。

安村崇《湯かき棒とゴム手袋》〈日常らしさ〉より 1999年 東京都写真美術館蔵

| 観覧料 | 一般700円 ほか 各種割引あり | 主催 | 東京都、東京都写真美術館

B1F

2025
8/28
(木)

2025
12/7
(日)

総合開館30周年記念
ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ

TOP 30th Anniversary Pedro Costa Innervisions

ポルトガルの鬼才、映画監督ペドロ・コスタ(1959-)による、日本で最大規模となる美術館個展を東京で初めて開催します。2018-2019年のセラルヴェス美術館(ポルトガル)での個展「companhia」や、2022-2023年の「The Song of Pedro Costa」(スペイン)などで注目された映像作品に加え、当館のコレクションも交え、映像とイメージの歴史を巡りながら、社会の構造に鋭く切り込み、新たな視点を提示するコスタの映像世界を紹介します。会期中には、美術館1階ホールにて、コスタによるセレクション上映「カルト・ブランシュ」や代表作の特別上映プログラム、アーティスト・トークを通じて、より深く作家の活動を知る機会をつくります。

ペドロ・コスタ《ホース・マナー》より 2014年

| 観覧料 | 一般800円 ほか 各種割引あり
| 主催 | 東京都写真美術館
| 後援 | ポルトガル大使館

※事業は諸般の事情により変更することがございます。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

NADIFT
BAITEN

2F SHOP

色柄が特徴的な装飾アクリルの端材を使用してつくられたNEWSEDのAcryl Tag Plateは、ランダムな色柄を組み合わせているため、すべて世界にひとつしかない1点もの。あなただけのお気に入りの色や模様を見つけてみてください。

Acryl Tag Plate 1,320円(税込)~

[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで) [TEL] 03-6447-7684
[定 休 日] 美術館の休館日に準じます

支援会員

次の企業・団体のみなさまに東京都写真美術館の活動を支援会員様としてご支援いただいております。

- 特別賛助会員

キヤノン(株)
全日本空輸(株)
(株)ニコン
- 賛助会員

キヤノンマーケティング
ジャパン(株)
(株)資生堂
大日本印刷(株)
TOPPANホールディングス(株)
富士フイルム(株)
- 特別支援会員

アサヒグループホールディングス(株)
サッポロ不動産開発(株)
サッポロホールディングス(株)
東急建設(株)
ビクテ・ジャパン(株)
- 支援会員

あいおいニッセイ同和損害
保険(株)
(株)アイネスト
アイング(株)
アオイネオン(株)
(株)アクト・テクニカルサポート
(株)浅沼商会
(株)朝日工業社
- 朝日新聞社
(株)朝日新聞出版
朝日生命保険(相)
(有)アスペン/POLARIS
(株)アフロ
(株)アマナ
(株)岩波書店
(株)潮出版社
(一財)AVCC・震が関ナレッジ
スクエア(KK²)
(株)エージーピー
SMB C日興証券(株)
SB C&S(株)
(株)NHKエデュケーション
(株)NHKエンタープライズ
(株)NHK出版
(株)NHKテクノロジーズ
ENEOSホールディングス(株)
エルメス財団
OMデジタルソリューションズ(株)
カル・ツァイス(株)
花王(株)
鹿島建設(株)
カトーレック(株)
(株)KADOKAWA
神奈川新聞社
カルチュア・コンビニエンス・
クラブ(株)
(株)キクチ科学研究所
(株)キタムラ
- キッコーマン(株)
(株)紀伊国屋書店
ギャラリー小柳
共同印刷(株)
(一社)共同通信社
空港施設(株)
(株)久米設計
グローリー(株)
(株)ケー・アンド・エル
ゲッティイメージズジャパン(株)
興亜硝子(株)
(株)弘亜社
(株)公栄社
(株)廣済堂
(株)講談社
(株)光文社
(株)国書刊行会
(株)コスモスインターナショナル
小山登美夫ギャラリー(株)
佐川印刷(株)
三愛オプリー(株)
産経新聞社
サントリーホールディングス(株)
(株)JT B
(株)シグマ
(株)実業之日本社
信濃毎日新聞社
清水建設(株)
(株)写真弘社
写真の学校/東京写真学園
- シャネル(同)
(株)集英社
(株)テレビ朝日
(株)小学館
松竹(株)
信越化学工業(株)
(株)新潮社
(株)晋遊舎
(株)スタジオエム・ジー
(株)スタジオジブリ
(株)SUBARU
住友生命保険(相)
(株)住友倉庫
(株)生活の友社
セイコークループ(株)
双日(株)
ソーニークループ(株)
損害保険ジャパン(株)
第一生命保険(株)
台新国際商業銀行
大和証券(株)
(有)タカ・インシギャラリー
(株)高島屋
(株)竹中工務店
(株)タニタ
(株)タムロン
(株)丹青社
(株)中央公論新社
中外製薬(株)
(株)築地製作所
- T&Dフィナンシャル生命保険(株)
(株)TBSテレビ
(株)テレビ朝日
(株)テレビ東京
(株)電通
東亜建設工業(株)
東映(株)
(株)東京印書館
弁護士法人東京笠井
法律総合事務所
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)日本デザインセンター
東京造形大学
東京総合写真専門学校
(株)東京ダイケンビルサービス
東京建物(株)
東京地下鉄(株)
東京テアトル(株)
東京競馬場(株)
(株)東京ニュース通信社
専門学校東京ビジュアル
アーツ・アカデミー
(株)東京美術倶楽部
東京メトロポリタンテレビ
ジョン(株)
東京冷機工業(株)
(株)東レックス
東宝(株)
- (株)東北新社
(株)東洋経済新報社
(株)トータルメディア開発
研究所
(株)徳間書店
戸田建設(株)
(株)トロンマネージメント
(株)東京印書館
弁護士法人東京笠井
法律総合事務所
東京工科大学/日本工学院
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
(株)日本デザインセンター
日本ヒューム(株)
(株)ニッポン放送
日本レコードマネジメント(株)
日本空港ビルデング(株)
日本経済新聞社
(株)日本廣告社
(株)日本広告写真家協会
日本写真印刷コミュニ
ケーションズ(株)
(公社)日本写真家協会
(公社)日本写真協会
日本写真芸術専門学校
日本生命保険(相)
日本大学芸術学部
日本ロレックス(株)
野村證券(株)
- (株)ハーツ
(株)博報堂
(株)博報堂DYメディア
パートナーズ
(株)博報堂プロダクツ
(株)ハセガワエスティ
パナソニックホールディングス(株)
(株)パラゴンホールディングス
(株)バンダイナムコフィルム
ワークス
ぴあ(株)
ビー・マックス(株)
北海道 写真の町東川町
(株)美術出版社
(株)ビックカメラ
(株)ピラミッドフィルム
(株)ファーストリテイリング
(株)フェドラ
(株)フォーカスシステムズ
(株)富士通パーソナルズ
(株)フジテレビジョン
(株)フジヤカメラ店
芙蓉総合リース(株)
(株)フレームマン
プロフォト(株)
(株)文化工房
(株)文藝春秋
北海道新聞社
(株)ホテルオークラ東京
本田技研工業(株)
- 毎日新聞社
丸善雄松堂(株)
マルミ光機(株)
(株)マンダム
(株)みずほ銀行
三井住友海上火災保険(株)
三井倉庫ホールディングス(株)
三井不動産(株)
三菱製紙(株)
三菱電機(株)
明治安田生命保険(相)
森ビル(株)
ヤマト運輸(株)
(株)吉野工業所
(株)ヨドバシカメラ
読売新聞社
ライオン(株)
ライカカメラジャパン(株)
(株)リビタ
(株)良品計画
(株)ロボット
(株)ワコウ・ワークス・
オブ・アート
(株)ワコール
- (令和7年5月現在・五十音順)

--- 支援会員入会お申込先 ---
東京都写真美術館支援会員事務局
[TEL] 03-3280-0032
- (株) = 株式会社、(相) = 相互会社、(有) = 有限会社、(公社) = 公益社団法人、(同) = 合同会社、(一社) = 一般社団法人、(一財) = 一般財団法人

東京都写真美術館

開館時間 10:00-18:00(木・金は20:00まで) ※入館は閉館30分前まで
休 館 日 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

公式ウェブサイト



SCHEDULE

サマーナイトミュージアム2025
8月14日から9月26日までの木・金曜日は、開館時間を21:00まで延長します。

3F	2F	B1F	1F
総合開館30周年記念 TOPコレクション トランスフィジカル 収 7.3(木) - 9.21(日)	総合開館30周年記念 ルイジ・ギッリ 終わらない風景 収 7.3(木) - 9.28(日)	被爆80年企画展 ヒロシマ1945 誘 5.31(土) - 8.17(日)	1F上映および展覧会の 最新情報はこちら ▼ 
総合開館30周年記念 遠い窓へ 日本の新進作家 vol.22 収 9.30(火) - 2026.1.7(水)	総合開館30周年記念 作家の現在 収 10.15(水) - 2026.1.25(日)	総合開館30周年記念 ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ 収 8.28(木) - 12.7(日)	
		プリビクテ 嵐 誘 12.12(金) - 2026.1.25(日)	
恵比寿映像祭 2026 2.6(金) - 2.23(月・祝)			
3階展示室のみ 2.6(金) - 3.22(日)	TOPコレクション W.ユージン・スミス 収 3.17(火) - 6.7(日)	APAアワード2026 誘 2.28(土) - 3.15(日)	東京都内の美術館・博物館等をお 得に見られる「ぐるっとパス」 ▼詳細はこちら▼ 
		小増山賢二(予定) 誘	
企企画展 収収蔵展 誘誘致展			

NEWS

ファミリープログラム

夏休みに、小学生とその保護者が、一緒にご参加いただけるファミリープログラムを開催します。展覧会を見たり、展示作品に関連した制作をしたり、さまざまな体験ができるプログラムです。自分の目でじっくり見ることや、実際につくることの楽しさを通して、写真の理解を深めながら、たくさんの発見や驚きに出会いませんか。

プログラムの
詳細やお申し込みは
こちら▼



やさしい日本語の美術館案内
パンフレットができました

日本語が母語ではない方にもわかりやすいように、利用案内などをやさしい言葉や表現にしました。館内で配布しているほか、当館ウェブサイト(だれでもTOP)からもご覧いただけます。

詳細は
こちら▼



フロムトップ

1F CAFE

[営業時間] 10:00-18:00(木・金は20:00まで) [TEL] 070-8591-3730
[定 休 日] 美術館の休館日に準じます

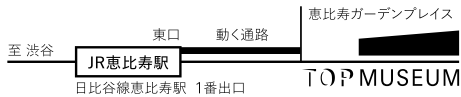
台湾で人気の屋台飯、ルーロー飯をワンプレートでご用意しています。コラーゲンたっぷりの皮付きの豚肉にこんにゃくを加えた食感楽しいルーロー飯に色鮮やかな野菜を添えました。コーヒーまたは日本茶付き1,600円(税込)。



東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
[TEL] 03-3280-0099 www.topmuseum.jp



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館ニュース「アイズ」121号 □発行日:2025年6月30日 □企画・編集:東京都写真美術館管理課企画広報係 □印刷・製本:株式会社八紘美術 □発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館©2025 □本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。※本誌編集ページに掲載されている観覧料は、消費税込みの価格です。事業は諸般の事情により変更することがございます。最新の情報はウェブサイトをご覧ください。